

simc News Letter

Sendai International Music Competition

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第6回仙台国際音楽コンクール 【開催日程】ヴァイオリン部門:2016.5.21(土)~6.5(日) ピアノ部門:2016.6.11(土)~6.26(日)

第6回仙台国際音楽コンクールヴァイオリン部門 セミファイナル第1日目演奏レポート

松本 學(音楽評論家)

第6回を迎えた仙台国際コンクール。27日のセミ・ファイナル初日を聴き、前回以上にかなり高いレベルだと感じた。コンテスタントたちはそれぞれが独自の音楽的個性を持った演奏を聴かせており、出場者のよしあし云々よりも、その内容の違いを聴き分け、音楽と彼らの持つ豊かな可能性を楽しめる回になっていると思う。



4 青木 尚佳 (日本)

シューマン / ヴァイオリン協奏曲 二短調
サラサーテ / カルメン幻想曲 op.25

たおやかさと安定した技術の共存

シューマンでは、第1楽章のソロの出だしをレガートで表現。とても丁寧でしっかりと弾いており、早い時点で彼女のテクニックが相当に高いことが証明されていた。全体にとってもたおやかな、しっとりした音楽づくりで、第3楽章では時折フレーズのある部分でフツと力を抜いたり音量を落とすなど、彼女がこの作品に共感し、センシティブに味わいながら表現していることが見受けられた。音の美しさをかなり重視するタイプでもあるようだ。ごく稀にフレーズングの重点について疑問を感じる箇所があったくらいで、きわめて高度なスターターとなった。ユニークだったのは、最後の245小節からの4小節間の3連符の連なりを、(3連符ずつ)それぞれスラーを付けて弾いていたこと。これは楽譜にはないので彼女のアイデアだろう。

2つ目には、サラサーテの《カルメン幻想曲》を選択。G線をはじめ、どの弦もしっかりとよく鳴る。このテクニカルな作品でもピッチはよく、技術的にとても高く、安定している。

セミファイナルの最初がこのレベルでスタートしてしまうと、採点が難しくなるだろう。

華麗な技巧で描かれる劇的な世界

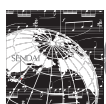
シューマンでは細かくアゴーギクを付けており、第3楽章でもエコー的処理のアイデアを用いたり、音楽の造形に一瞬でも味付けを忘れない教育がなされているという印象を受けた。カーティス音楽院で学んでいるだけあって、テクニックは実に鮮やか。第1楽章第2主題の提示直前に、シフト(左手のポジション・チェンジ)が連続するところでピッチがわずかに乱れたことを除けば、ほとんど問題なし。フィナーレ最後の音はオーケストラと同じ長さにしてた。

セレクト作品は、サン＝サーンスの《序奏とロンド・カプリッチオーソ》。これが圧巻の演奏。相当に弾きこんでいるらしく、序奏のテーマから一瞬抜いたり、スピト・ピアノ(突然音量を落とす)を盛り込むなど、とにかく表情がたつぷり。アレグロ・マ・ノン・トロポのロンドへの入りも少し長めにタメを作り、効果を高めていた。内省との折り合いを必要とするシューマンとは異なり、細かく付けられてゆく表情と華麗な技巧が実に映える。デュナーミクの幅も広いので、とても劇的でもある。



13 スティーヴン・キム (アメリカ)

シューマン / ヴァイオリン協奏曲 二短調
サン＝サーンス / 序奏とロンド・カプリッチオーソ op.28



■お問い合わせ先/公益財団法人 仙台市市民文化事業団 仙台国際音楽コンクール事務局

〒981-0904 仙台市青葉区旭ヶ丘3-27-5 Tel: 022-727-1872 Fax: 022-727-1873 E-mail: info@simc.jp URL: http://www.simc.jp/



29 ユリエ・スヴィエツェナー(チェコ)

シューマン / ヴァイオリン協奏曲 二短調
ラヴェル / ツィガーヌ

「驚いた」ことはもうひとつ。それは前2名が新校訂版を使っていたのに対し、彼女が旧ショット版の譜面で演奏していたことである。近年実演では弾く者がいなかったもので、思わず懐かしくなった。

後半のラヴェル《ツィガーヌ》ではG線のハイポジションもよく響き、全体に丁寧に弾ききった。ソロとオケがブレンドされた音はとても興味深かったが、音のヴォリュームを増した方が喜ばれるだろう。

しっとりとしたテンポで歌い上げたシューマン

この日個人的に最も驚かされたのが彼女。シューマンのオーケストラの序奏が誰よりも遅く、仄暗く始まったのは、指揮者との打ち合わせの結果なのか、それとも指揮者独自のものなのか詳らかでないが、独奏が入ってからこの日の4名のうち、最もコンチェルト然としていない造形に感じた。最初のアコードが比較的ソフトに始められたことや、ラストのスケールの連続も派手にしない、さらに音質がシブめであまりパワフルな奏法でないことも絡んでいるだろう(どのような楽器を使っているのかも気になった)。第1楽章第2主題の後で一瞬暗譜が飛んだ(指がもつれた?)とこころがありヒヤリとしたが、すぐに回復したのは重要。リカバリー能力をこそ評価したい。

第2楽章はしっとりとした味わい深く、ポロネーズが織り込まれたフィナーレはアーノンクール&クレメールやイザベル・ファウストを彷彿させるじっとりとしたテンポで歌い込み、じわじわと感動をいや増してゆく魅力があった。ステイーヴン・キムとのフィンガリングの違いも興味深かった。彼女は肘を少し上げて弾くタイプのようなだ。

3年を経て感情表現に深みを増したサフキナ

前回から連続出場となるサフキナのシューマンは、スヴィエツェナーとは逆に少し速めによるアプローチ。ソロも勢いよく入り、6連符の後(60小節目)からはぐっと時間をとって、メリハリのある音楽を聴かせた。展開部途中での弱音を駆使したセンシティブな表現もよい(それにピタリと反応した指揮者とオーケストラも見事)。提示部終わり近くで弓が滑ったのかミスが出たのは惜しかった。

第2、第3楽章での情感のこもった演奏も素晴らしく、前回から3年を経て以前よりもエモーションを表に出すようになった成長ぶりを微笑ましく思った。

第3楽章の終わりに2度出てくる3連符の連続では、1度目を半跳ばし(スタカート気味)、2度目をデタッチェで弾き分けていたのも興味深い。後半は《ツィガーヌ》。とてもよく楽器を鳴らしており、演奏もしっかりしていた。コンクールではあるが、もう少し遊びがあればよかったとも思う。



27 アンナ・サフキナ(ロシア)

シューマン / ヴァイオリン協奏曲 二短調
ラヴェル / ツィガーヌ

第6回仙台国際音楽コンクールチケット情報

	ヴァイオリン部門	ピアノ部門	座席	料金
予選 各部門概ね36名	5月21日(土) 12:30~ 22日(日) 12:30~ 23日(月) 10:00~	6月11日(土) 10:00~ 12日(日) 10:00~ 13日(月) 10:00~	全席自由 (日付指定)	1,000円
セミファイナル 各部門12名	5月27日(金) 18:00~ 28日(土) 14:00~ 29日(日) 14:00~	6月17日(金) 18:00~ 18日(土) 14:00~ 19日(日) 14:00~	全席指定	S席3,000円 A席2,000円
ファイナル 各部門6名	6月2日(木) 18:30~ 3日(金) 18:30~ 4日(土) 15:00~	6月23日(木) 18:30~ 24日(金) 18:30~ 25日(土) 完売	全席指定	S席3,000円 A席2,000円
入賞者記念 ガラコンサート 各部門1位から3位	6月5日(日) 完売	6月26日(日) 完売	全席指定	S席4,000円 A席3,000円

【プレイガイド】

- ローソンチケット
Lコード: 26661 (ヴァイオリン部門)
: 26662 (ピアノ部門)
- チケットぴあ
Pコード: 284-653 (両部門共通)
- 仙台三越
- 日立システムズホール仙台1階事務室
(仙台市青年文化センター)
- イズミティ21(1階事務室)